

中小企業診断士としての元旦（平成 31 年 3 月 28 日更新）

自宅や派遣元に戻るための荷造りを終えて、30期生は晴れて終講式に出席しました。どの顔にも、喜びと充実感が溢れているように見えました。

それもそのはずです。人生の中での6ヶ月間という期間は、長いようで短く、短いようで長い期間です。開講式の日には、右も左もわからなかった30期生が修了証書を手に巣立つまでの期間は、どの6ヶ月間と比べても凝縮された時間だったはずです。

式典を終えると、同期の仲間と別れを告げる時が来ました。教室いっぱい貼られた付箋の山との格闘や、初実習の報告会前日の不安な夜を、つい昨日のことのよう振り返りながら、心はすでに中小企業支援の現場へと向かっていきます。その後ろ姿は、どことなく一回り大きく見えました。

